

## 追 悼

### 外島健吉氏を悼む



本会「外島健吉記念資金」創設者、元評議員、元株式会社神戸製鋼所社長は、平成6年1月23日、急性心不全のため、逝去されました。享年91才でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

外島氏は、明治35年6月30日に大阪市にお生まれになりました。昭和2年3月京都帝国大学工学部採鉱冶金科を卒業後、新家自転車製造(株)に勤務され、同7年11月株式会社神戸製鋼所に入社、同24年8月に取締役、同28年11月常務取締役、同31年11月専務取締役、同33年11月取締役社長、同47年5月取締役会長を歴任されましたが、その間戦前から、戦後の復興期、高度成長期を通じて同社の鉄、機械、アルミ・銅からなる複合事業の再建・拡充に尽力されました。特に同氏は、GHQの肝入りで、戦後日本で初めて、米国鉄鋼業を視察した、いわゆるスチールミッションの有力団員であり、日本鉄鋼技術者として2ヶ月にわたる調査から、日米に20年の技術格差ありとして、それ以降の日本鉄鋼業の設備・技術の近代化を推進されました。

神戸製鋼所においては、神戸製鉄所、加古川製鉄所の建設を決断し、ひいては日本鉄鋼業の躍進に大きく貢献されました。さらに機械部門を強化・拡充し、産業界の技術革新に大きな役割を果たされ、またアルミ・銅部門を業界のトップメーカーに育て上げる等同社の複合経営の基礎を築かれました。このような事業を通じて、産業界の技術革新の推進と素材から製品に至る広範囲な日本の産業の躍進に大きく貢献されました。

また、業界活動に関しましては、日本鉄鋼連盟IE委員会、日本管理委員会各種委員長、日本産業機械工業会会長、日本伸銅協会会長などを歴任され、各界の諸問題に対し、卓越した指導力と調整力をもってあたられ、大きな功績を残されました。この他、官庁からの要請で公職でも活躍され、通商産業省産業構造審議会委員、同重機械輸出会議議長、同貿易会議委員、同工業立地および工業用水審議会委員等を務められ、有効適切なる提言をまとめられ、政策立案に寄与されました。

このような同氏の幅広い分野での功績は高く評価され昭和36年5月藍綬褒章、同38年11月紺綬褒章、同46年6月レジオン・ド・ヌール勲章、同47年11月勲一等瑞宝章を授与されておられます。

晩年も同社の相談役として、最期まで産業界の発展と後進の育成に尽されました。特に同氏は、スチールミッションの一行と毎年会合されて旧交を暖めつづけられ、戦後復興期における技術史の推移を明らかにするため平成2年4月、日本鉄鋼協会の第76回総会において、同氏の寄贈にかかる「外島健吉記念資金」が創設され、同月25日の理事会で同資金の事業の1つとして戦後技術史の調査・編集を進めることが決められ、「戦後技術史調査小委員会」が発足し、平成4年10月『戦後復興期における我国鉄鋼技術の発展』が出版されました。なお、この本は、平成5年7月に開催された先進国首脳会議に英訳して配られ、高く評価されました。また、米国主要関連団体にも、これを持参し、日本の鉄鋼業界の理解を深めてもらうのに大いに役立ちました。今後も、このような同氏の卓越した指導力を期待しておりましたのに、このように優れた先達を失いましたことは、誠に残念であります。ここに氏の偉大なご功績と御遺徳を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げて、ご冥福をお祈り申し上げます。